

老福センター舞鶴園 特別企画

ビデオ上映会

優しい認知症ケア

「ユマニチュード」って何だろう

入門編(前編)



日時: 令和3年7月15日(木) 15時 (約70分程度)

場所: 4階 大広間

定員: 15名(事前申込制)



参加希望の方は事務所へお申し込み下さい

ユマニチュードはフランスの二人の体育学の専門家イヴ・ジネストとロゼット・マレスコッティが開発したケアの技法です。

認知機能が低下し、身体的にも脆弱な高齢者の方々に対してケアを行う時、ある時は穏やかにケアを受け入れてもらえるのに、別の時は激しく拒絶されることがあります。

その原因を考え続けた二人は、ケアがうまくいく時といかない時には「見る方法」「話す方法」「触れる方法」が違っていることに気がつきました。

さらに、人は「立つ」ことによって、生理学的な効果のみならず、その人らしさ、つまりその尊厳が保たれることから、この4つの要素「見る」「話す」「触れる」「立つ」を「ケアの4つの柱」と名付けました。

ケアの4つの柱

見る



話す



触れる



立つ



福岡市では、人生100年時代を見据え、誰もが心身ともに健康で自分らしく生きていくことが出来るよう、個人の幸せと持続可能性が両立する健寿社会のモデルをつくるプロジェクト「福岡100」に取り組んでいます。

その一つとして、認知症の人やその家族がいきいきと暮らせる認知症にやさしいまち「認知症フレンドリーシティ」を目指し、病院/介護施設・家族介護者・一般市民・児童/生徒・公務員など幅広い方々を対象に「ユマニチュード」講習を行なっています。